西高校生レポート

西高農場は、地域とともに先端技術の研究･研修、憩い、自然とのふれあいの『場』として開放しています。

～能代西高校の初蜜（ハチミツ）!? ～

農業クラブ（加藤未衣奈会長（３年））執行部の生徒６名は４月から能代西高校初となる養蜂に取り組み、先日その採蜜作業を行いました。

能代西高校には、ニホンミツバチの自然巣があるほか菜の花やソバ、桜など季節ごとの花が咲くことから、複数の蜜が組み合わさった「百花蜜」を得るのに適した環境です。

初めての採蜜は、校内の菜の花畑と果樹園付近に設置した２か所の養蜂場で作業が始まり、５段に積み重なった養蜂箱のうち巣の貯蜜部が入っている最上段を回収しました。

回収した巣は調理室に保管して自然に流出してくる垂れ蜜を採取。途中で味見した生徒は「甘くておいしい」と笑顔を見せました。

布でこしてから瓶に詰められたハチミツは学校祭やのしろ産業フェアなどで販売します。

恐る恐る蜂の巣貯蜜部を取り出し

～日本農業技術検定試験を受験～

日本農業技術検定は、これからの農業を担う人材の育成・確保に欠かせない検定として関係機関から注目されており、入試で優遇する農学系大学や、優先採用する企業・法人があるなど受験メリットも拡充してきている資格です。

年に２回試験が行われ今年度第１回目日本農業技術検定３級の試験に17名の生徒が挑戦し、見事８名が難関を突破しました。残念ながら惜しくも涙を呑んだ生徒も、12月に開催される第２回目の試験に向けて既にスタートを切っています。

～農業情報処理競技会東北大会を開催～

農業情報処理に関する基礎的な知識が問われるとともに、パソコンを使用した表計算並びに考察文書処理の技能を競う東北大会が能代西高校を会場に開催されました。

東北６県の予選を勝ち抜いた高校19校が集まりその技術を競いました。残念ながら能代西高校農業クラブは東北大会出場の切符を手にすることが出来ませんでしたが、開催校の農業クラブとして、他県の農業クラブの生徒や先生たちに対し、堂々と裏方の仕事をやり遂げ大会は成功裏に終了しました。

受付を担当する農業クラブの生徒

蠍座（10・24～11・22） ルーズになりやすい暗示。後回しにすると面倒になるので、早めに済ませて。気力上昇にはフットマッサージを